



ひらたえがお保育園で開催された「出前手話講座」(5面に関連記事)



CONTENTS

- P3** 2024年度の主な新規事業
- P4** タイ研修生 ナッチャさんに聞く
- P5** 20年のあゆみを冊子に
- P6** つばさコンサート40回目

旭川荘 だより

vol.
279

2024.5.15 発行

発行/社会福祉法人 旭川荘
〒703-8555 岡山市北区祇園866
TEL 086-275-0131 FAX 086-275-5640
<https://www.asahigawasou.or.jp>



カフェで開催したあおばの街角ギャラリー
津島児童学院の子どもの作品も並ぶ(6面に関連記事)



変化する者が生き残る

理事長 神崎 晋

4月初旬、旭川荘の桜は満開です。穏やかな季節の中、職員に付き添われて散歩される利用者の方々を多く拝見するようになりました。新型コロナウイルスの流行による厳しい行動の制限により、ようやく終わりが見えてきたことを実感させてくれる心温まる風景です。

旭川荘は令和3年度、4年度と2年続けて赤字決算でしたが、令和5年度は何とか黒字決算になりそうです。職員の皆さんの努力の賜物と感謝しております。今年度は医療、介護、障害福祉の報酬改定があり、それぞれ0.88%、1.59%、1.12%の引き上げとなります。しかし今年度も報酬の引き上げ以上の物価や人件費の高騰が予測されており、予断を許さない状況が続きます。私どもは、利用者の方々に最良の医療や介護のサービスを提供することを基本としながら、各施設、部門において少しずつでもよいので、経営の、あるいは医療・

介護の改善を図る努力をしたいと思います。小さな改善も積み重なれば大きな改善へとつながっていきます。

旭川荘では新年度から、小幡篤志理事を室長とする経営企画室を立ち上げました。経営、設備、人事・給与体系等の問題点を抽出し、解決の方策を提案する部門です。その提案のもとに、それぞれの課題について各施設から適切な人材を抽出してタスクフォース(緊急性を要する課題をいち早く解決するために構成され、目標を達成した時点で解散する組織)を立ち上げます。これにより問題点の解決の期限が設定でき、更に中堅・若手が意見を述べられる場もできます。後者は風通しの良い職場環境の形成に役立つと確信しております。「強い者が生き残るのではない。変化する者だけが生き残る」(ダーウィン)。

新職員41人に辞令交付

今年度旭川荘に採用された新職員41人に4月1日、辞令が交付されました。

旭川児童院で行われた辞令交付式には愛媛支部を除く新職員38人が出席。役員や施設長らが見守る中、順番に氏名、配属先、職名が読み上げられ、神崎晋理事長から一人一人へ辞令が手渡されました。

神崎理事長は旭川荘の基本理念や川崎祐宣初代理事長が好んだ武者小路実篤の言葉「天に星、地に花、

人に愛」に触れ、「初めは戸惑うこともあると思いますが、愛を持って利用者の方を支援し、充実した社会生活を送ってください」と新職員を激励。新職員を代表していづみ寮・生活支援員の延原佑季さんが「日々成長を重ね、利用者様の気持ちを大切にしながら支援し、誰もが幸せを感じられるよう努めていきます」と宣誓しました。

愛媛支部の新職員3人はこの日、配属先の南愛媛療育センターで辞令を受けました。



新職員を激励する神崎理事長



神崎理事長に宣誓する延原さん(中央)

2024(令和6)年度の主な新規事業について

わかば寮建て替えⅢ期工事の実施

わかば寮の全面建て替えのための3か年計画の最終年・第Ⅲ期工事を実施し、居住棟と相談棟を新築します。また、令和7年度にはかえで寮の全入所者をわかば寮に完全に移行し、かえで寮を通所事業所に変更する予定であることから、本年度はわかば寮の女性入所者をかえで寮に移行するとともに、わかば寮の就労継続支援B型事業をかえで寮に移管するなど、段階的に再編を進めます。

訪問診療の充実

重症心身障害児者や医療的ケア児等の在宅での生活を支援するため、祇園地区に新たに訪問診療を行う診療所を設置することを含め、訪問診療や訪問看護の機能を一層充実させるよう、体制整備を進めます。

強度行動障害児者の支援体制の構築

旭川荘内の施設が、岡山県精神科医療センターなど県内の医療機関や、他法人の設置する知的障害者施設、岡山市などの行政機関と連携し、自傷・他害行為等がみられる強度行動障害児者を、各施設・機関が役割分担をしながら地域の中に円滑に受け入れていけるよう、中間型施設の設置などにより新たな支援体制を構築することを目指します。

VR機器によるリハビリ効果の検証

旭川療育園において、仮想空間上の狙った位置に手を伸ばす動作を繰り返し、姿勢バランスや認知処理機能等を鍛えることができるVR機器(mediVRカグラ)を導入しました。この機器は高齢者の認知症等への治療例は多くありますが、今後さらに脳性麻痺患者等に対す

るリハビリにも役立てられるよう、有効性の検証を進めていきます。

備中支部のあり方の検討

人口減少が進む備中支部におけるサービス提供のあり方について、たかはし松風寮をはじめとする各施設が参画して支部全体で議論する体制を整備し、検討を進めます。

就労定着支援事業の開始

カレッジ旭川荘において、4年間勉強して企業等に就職した卒業生が長期にわたって働き続けられるように、就職後一定期間を経過した後も継続的に連絡を取ってアドバイス等を行うとともに、勤務先の企業を訪問するなどして連絡調整を行う「就労定着支援事業」を開始します。

上海での絵画展の開催

上海市で7月、同市と合同での絵画展を5年ぶりに開催します。今回は障害児施設のほか、社会福祉法人みその児童福祉会の児童福祉施設も参画し、施設同士の交流を図るとともに、児童・障害福祉に対する日中両国の市民の理解を促進します。

経営企画室の設置

法人本部に新たに経営企画室を設置しました。少子高齢社会の中で、旭川荘の質の高いサービスを持続可能なものとしていくため、事業運営に関する諸課題の調査分析を行うとともに、ウェブ上の掲示板や各種タスクフォースを設置して若手職員の意見を収集するなど、法人全体で議論し対応していく体制を構築します。



わかば寮建て替え第Ⅱ期工事で完成した管理棟(中央奥)と居住棟(右手前)

タイ研修生 ナッチャさんインタビュー

タイの軍立(国立)プラモンクットクラオ病院のリハビリテーション医師で専門医の資格取得を目指すナッチャ・ホームロックスコンさんが、3月4日から28日までのおよそ1カ月間、旭川荘療育・医療センターや竜ノ口寮などで障害者ケアについて研修を受けました。

同病院に在籍し、1990年ごろから津山国際交流車いす駅伝競走大会などを通じて旭川荘と交流がある、ファンファ・クナドーン医師からの依頼で研修が実現しました。

旭川荘では医療機関のほか、児童から高齢者までのさまざまな施設を見学。勤務する病院は子どもを対象としているため、日ごろ接することがない先天性の障害のある成人の様子や、PT(理学療法士)・OT(作業療法士)によるリハビリトレーニングが見られたことについて「とても貴重な体験」と振り返りました。また、医療機関と施設の連携が難しいタイの現状を挙げ「病院の近くに障害者の施設などがあって、よい連携がとれている」と旭川荘内のネットワークについて関心を寄せていました。

さらに荘内の就労継続支援B型事業所を見学したことに触れ「障害のある人が作ったモノを販売するのはタイでもあるが、箱折りや清掃などオーダーを受けて仕事をするのは見たことはなかった。継続的に仕事があって、自分でできることをしてお金をもらう。生きがい、やりがいにつながる」と語るナッチャさん。利用者と接する旭川荘の職員の姿について「本人が能力を生かせるよう優しくサポートしていると感じた」と話しました。

ナッチャさんは、高校生の頃に交換留学のため奈良



リハビリテーション医を目指したのは「本人の身体だけでなく、精神や生活面のケアになり、家族のサポートにもなると思ったから」と語るナッチャさん

県でホームステイをした経験があり、長期の来日は2度目。日本の食べ物に興味を持ち、岡山では日生でカキオコも食べたそうです。

研修を終え「帰ったら見聞かしたことを病院のソーシャルワーカーとも共有して、自分にできることを考えたい」と笑顔を見せていました。

笑顔の写真満載 竜ノ口寮50周年記念誌

竜ノ口寮は施設の開設50年に合わせ、昨年度末までに「50周年記念誌」を製作しました。

同寮は1973(昭和48)年、身体に重い障害のある成人の療護施設として中四国で初めて開設。利用者の個性を尊重し、寮内では古くからボッチャや絵画、文



20年間の思い出を写真で振り返る記念誌

芸、華道などの多彩なスポーツ・文化活動が行われてきました。

過去に30周年誌を作っていることから、今回の記念誌はそれ以降の「20年間の思いをつむぐ写真集」として編集。2004年から2023年の20年間で5年単位で区切り、撮りためた写真を「福祉の翼」や「秋桜祭」「料理教室」「新棟完成」などのテーマごとに紹介しています。

また、表紙と裏表紙にも笑顔のスナップ写真80枚をレイアウト。巻末には上空から施設を撮影した写真や、利用者と職員の集合写真も掲載しています。

A5版、カラー、48ページ。600部製作。編集を担当した林由布子介護主幹は「利用者全員の顔が分かるよう写真を選んだ。過去に在籍した利用者や職員らの懐かしい写真も掲載しているので、アルバムを見るように楽しんでもらえたら」と話しています。

ひらたえがお保育園で出前手話講座 「聞こえないってな〜に」 紙芝居で理解深める

ひらたえがお保育園で3月5日、岡山県聴覚障害者福祉協会による「出前手話講座」が開かれ、園児たちが聴覚に障害がある人たちへの対応や手話を使ったコミュニケーションについて学びました。

同協会は昨年11月、幼保育園児向けに紙芝居の教材を製作。紙芝居を使った手話講座は岡山市内の幼保育園では今回が初めてで、年中年長の園児と職員ら

35人が参加しました。

講座では同協会の庄田正子さんの手話を、手話通訳者の大岡政恵さんが言葉で子どもたちに説明。紙芝居に描かれたスイカ割りや複数人でおしゃべりする場面を示しながら、どうすれば聞こえない人たちが仲間の輪に入れるのかを園児たちに問いかけ、より良い対応について一緒に考えました。

庄田さんは、手話で気持ちを伝える際に目や口、身体の動きが重要であることを表情豊かに紹介。園児たちは一人ずつ前に出て「泣く」「怒る」などの感情や動物の名前を手話と身振り、表情で他の園児に伝える遊びを体験しました。さらに手話のほかにも、光で知らせるチャイムや筆談ボード、振動するブザーなどの機器を使って聞こえない人とコミュニケーションする方法があることを教わりました。

講座を終え庄田さんは「(紙芝居の)絵を見て想像を膨らませる子どもたちの力に驚いた。聞こえない人たちがどんなことに困っているのか、多くの人に知ってもらいたい」と振り返りました。



園児たちに手話による表現を紹介する庄田さん(左)

ひらた旭川荘20年のあゆみを冊子に

ひらた旭川荘は昨年度、岡山県から引き継いだ施設運営が20周年を迎えたことから、記念誌「れんが道 発展から深化 一ひらた旭川荘運営20年のあゆみ」を製作しました。

旭川荘が運営を受託した2003(平成15)年から2022(令和4)年までの主な出来事を年表と写真で見やすく整理。2019年に開園したひらたえがお保育園、その翌年に廃止された福祉型児童入所施設わかさ学園を含め、日中活動や行事などを楽しむ利用者・園児の笑顔あふれる写真を施設ごとに掲載しています。

さらに、ひらた旭川荘全体で取り組む盆おどり大会や秋まつりなどのほか、ひらたを会場に地域住民が主催する星空サマーコンサート、毎年2年生がひらたを訪れて奉仕活動に取り組む清心中学校との交流なども写真とともに紹介しています。

このほか、毎月開催する「ひらたの市」の8年間の活動を出店者とともに振り返

る座談会、利用者のアート作品、「ひらた今昔写真集」も収録。表紙には荘内外のアート展で受賞歴のある糸濱とし子さん(のぞみ寮利用者)の絵画作品を使用しています。

A4版、カラー、76ページ。800部製作。4月末までに家族会や荘内外の関係者に配布しました。



ひらた旭川荘の20年のあゆみをまとめた記念誌

あおばがナカニシ珈琲で作品展 津島児童学院も参加

あおばは津島児童学院と合同で、カフェの店内に利用者が制作した絵画や造形作品などを展示する街角ギャラリー「結 - tsunagu -」を2月21日から3月3日まで、ナカニシ珈琲(岡山市北区中井町)で開催しました。

街角ギャラリーは、地域の人たちに作品を見てもらい、利用者にやりがいや喜びを感じてもらおうと、2022年にあおばが初めて企画。3回目の今回は、津島児童学院から「作品発表の機会が少ない子どもたちの作品も展示させてほしい」との依頼があり、初のコラボが実現しました。

店内には人物や風景などが描かれた絵画14点のほか、石に色をつけて魚や動物を表現したストーンアート

なども展示。また、来場者も含めてみんなで「つながろう」と、2施設共同で絵やメッセージを書いたおみくじを作成。おみくじを結ぶ木も設置しました。会期終盤にはたくさんのくじが結ばれ、“くじの花満開”のアート作品となりました。



たくさんのおみくじが結ばれたくじの花の木

つばきコンサート40回目

利用者の日常生活の様子などを職員が詩にして、メロディをつけて発表する「つばきコンサート」が3月13日、旭川児童院で開催されました。コンサートは、今回で40回目。昨年に引き続き会場の音楽室は無観客で、発表の様子はZoomを利用して院内にライブ配信されました。

会場では、兄弟愛や修学旅行の思い出をテーマにした9曲を演奏。各発表者が手作りのうちわなどの小道具や揃いの衣装で登場し、ステージを盛り上げました。

また、配信を通じて南愛媛療育センターと交流。利用者が作った詩2作品が本人や職員によって披露されました。



揃いの衣装でステージに立つ発表者

ハレノワでシニアのファッションショー 旭川荘も賑わいづくりに出店

60歳以上のシニアたちが出演するファッションショー「ハレノワコレクション」が4月6日、岡山芸術創造劇場ハレノワ(岡山市北区表町)前の広場で初めて開かれ、賑わいづくりのため旭川荘も出店しました。

イベントは地元住民らでつくる実行委員会が、千日前商店街があったハレノワ一帯の地域活性化と世代間交流を狙いに企画。公募で集まった60~80代の男女17人がお気に入りの衣装を着てランウェイを歩くと、客席から大きな拍手とともに「素敵!」「かっこいいよ」などの掛け声が上がりました。

周辺にはイベントを盛り上げようと、キッチンカーや地元商店による総菜や雑貨を売るテントが並び、旭川荘のテントでもインシシ革グッズや木工製品、クッキーなどを販売。小物が入ったカプセルを竿で釣る「ガチャ釣り」は子どもたちの人気を集めました。



旭川荘のテント。ハレノワ横の通りに出店が並んだ



笑顔で観客の声援にこたえるファッションショーの参加者

ひらた旭川荘へテーブルと椅子 岡山後楽園ロータリークラブより寄贈

ひらた旭川荘では、岡山後楽園ロータリークラブ(RC)から創立35周年記念事業として3月14日、テーブル4脚と椅子18脚を寄贈していただきました。

この“くつろぎセット”(テーブルと椅子)は「ひらたの杜にて使用していただきたい」(同RC)とのことで、贈呈式もひらたの杜で開催。同RCの会員15人と施設の職員、利用者が出席し、松井浩明会長から田中重行総括施設長に目録が手渡されました。

田中総括施設長は「このくつろぎセットを通して、新たなご縁が生まれたり、人と人とのつながりが広がったり

すると思います」とお礼を述べ、贈呈式に参加したわかば寮とかえで寮の利用者が早速くつろぎセットに座り、ティータイムを過ごしていました。

ひらたの杜ではクラウドファンディングによる高木の剪定作業も既に終わり、いただたくつろぎセットは常時ひらたの杜に設置する予定です。ひらた旭川荘の利用者や、職員、地域住民の方々にもくつろいでいただき、多くの方の交流が一層進み、憩いの場となることを期待しています。

(広報委員 藪田善子)



松井会長(左)より田中総括施設長へ目録が手渡された



ひらたの杜に設置されたテーブルと椅子

リレーコラム

フラットな関係を目指して

私は日頃より知的障害のある人への虐待問題、特に福祉従事者(支援者)によるものに関心を持っています。何故ならば知的障害のある人を支援すべき者が虐待を生じさせてしまうことは、その存在理由そのものを揺るがしかねないからです。しかしながらマスコミによる報道は後を絶ちませんし、厚生労働省が発表している虐待発生件数は右肩上がりです。

私は支援者の虐待の発生原因は知的障害者と支援者の非対称的な関係にあると思ひ、日ごろ知的障害者を評価する側である支援者を、逆に知的障害者が評価することができないか?また、その際支援者はどう思うのか?という疑問をもちました。そして「知的障害者による支援者評価に関する研究」という課題名で文部科学省の科学研究費助成事業(通称:科研費)に応募・採択され、旭川荘総合研究所のチームにて研究を進めています。

令和4年3月から9月にかけて、旭川荘内の知的障害者関係施設に協力を仰ぎ、12施設の116名の知的に障害がある利用者、また、254名の現場で知的障害者に支援をしている職員などにアンケート調査を行いました。多大なるご協力をいただき、大変感謝しております。

多種の得られたデータから結果をまとめるのに時間がかかっていますが、令和5年11月4、5日に開催された、第58回日本発達障害学会にて途中経過をポスター発表いたしました。そのポスターを旭川荘ホームページにアップしておりますので、ご興味のある方はご覧いただけると幸いです。

知的障害者と支援者のよりよい関係づくりに寄与できるよう、研究を推進してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(広報委員 長壽厚志)



研究成果はこちらから▶



旭川荘理事会・評議員会報告

令和5年度第6回理事会を3月15日、岡山プラザホテル（岡山市中区浜）、第3回評議員会、第7回理事会を同27日にホテルグランヴィア岡山（岡山市北区駅元町）で開催しました。

第6回理事会では、15件の議案と1件の報告案件が審議され、令和6年度事業計画、令和6年度資金収支予算、令和5年度第2次資金収支補正予算など5件の議案と4件の報告案件を評議員会に提出することが承認されました。

第3回評議員会では、5件の議案について審議され原案どおり承認されました。また第7回理事会では、業務執行理事の選定（案）について審議され原案どおり承認されました。

令和6年度主要人事

役員

◎異動(令和6年4月1日付)

須江 裕紀 専務理事

◎新任(令和6年4月1日付)

荻野 拓志 理事

顧問

◎退職(令和6年3月31日付)

山村 健 旭川荘 顧問

中村 桂 旭川荘 顧問

上田 暢男 旭川荘 顧問

施設長

◎異動(令和6年4月1日付)

秋山 哲生 備前支部 支部長

小幡 篤志 経営企画室 室長(兼)広報室 室長
(兼)日中・アジア医療福祉研修センター 所長

桐野 伸一 旭川荘 顧問(兼)旭川荘研修センター 所長

佐藤 美彦 事務局 顧問

濱口 喜直 旭川児童院 バンビの家 所長

寺町 清二 旭川学園 園長

矢幡 伸世 愛育寮 寮長(兼)あかしや園 園長
(兼)デイセンターあかしや 所長

須田 篤人 いづみ寮 寮長

杉原 良行 あおば 所長

山内 康雄 旭川荘真庭地域センター 所長

川上 一夫 備中支部 顧問

たかはし松風寮 顧問

尾上俊太郎 たかはし松風寮 寮長

(兼)たかはし障害者就業・生活支援センター 所長

三宅 得智 ひだまり苑 事務長(兼)川上診療所 事務長

(兼)川上歯科診療所 事務長

(兼)かわかみ療護園 顧問

宮崎 祐子 のぞみ寮 寮長

(兼)ひらた旭川荘通園センター 所長

◎新任(令和6年4月1日付)

清水 裕江 かわかみ療護園 園長

佐々木亮治 せとうち旭川荘 所長

福田 玲子 くわのみどりの家 所長

黒住 卓 津島児童学院 学院長

書類保管庫・キッチンワゴン寄贈 安田精米、中国銀行から旭川荘へ

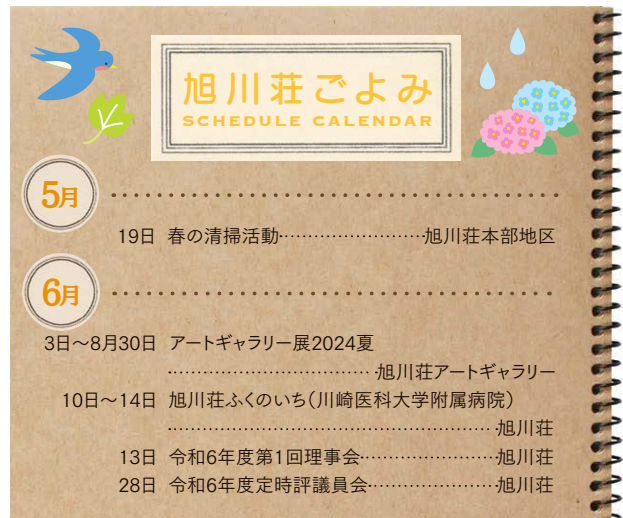


寄贈していただいた安田社長(左から3番目)ら

安田精米（岡山市北区津寺）と中国銀行（岡山市北区丸の内）より3月14日、フーズセンターと旭川荘療育・医療センターへ、それぞれ書類保管庫とキッチンワゴンを寄贈していただきました。

安田精米は中国銀行が扱うSDGsをテーマにした私募債を発行。発行手数料の一部を活用して寄贈品を購入していただきました。

この日、資料館で贈呈式が行われ、安田精米の安田稔社長と延藤広知部長により寄贈品が届けられました。地域の福祉に対して何か協力したいとの安田社長の強い思いにより、「取引のある旭川荘へ」と、施設が希望する品をご用意いただきました。神崎晋理事長は「大切に使用させていただきます」とお礼を述べました。



編集後記

いつも通る通勤路も春の花々が一斉に咲きはじめる華やかに感じます。私にとって春は花粉症と黄砂に悩まされる憂鬱な季節ではあるものの、寒空にちぢんでいた風景が色彩を取り戻す様子を見ると気持ちも穏やかになり、幾分症状も緩和されるようにも感じます。

新年度がスタートし慌ただしい毎日に気持ちの余裕も持てずにはいますが、時々足を止め季節の彩りを感じ、その時々風景を楽しむ心の余裕を持ちたいと思っています。
(広報委員 後藤友美)